



## スライドセントル打設感知システム

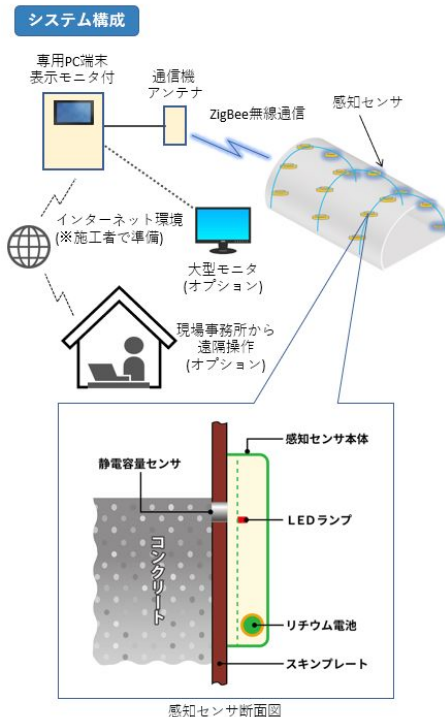
NETIS登録番号：QS-220018-A



### 概要

本技術はトンネル工に関する技術である。覆工コンクリートの打ち上がりを静電容量の変化を感知するセンサー（感知センサー）で可視化する技術である。従来は管理者による目視や手録で対応していた。本技術の活用により、適正な打ち上がり管理ができるため、施工管理を効率化できる。

公共工事では、トンネルの覆工コンクリート工事にその効果を発揮する。



### 特長

#### 新規性

- セントルに複数の感知センサーを取り付けることにより、コンクリートの打ち上がりを専用のPCでリアルタイムに確認できるようにした。

### 期待される効果

- タイムリーに打ち上がり高さを可視化することで、セントルの偏圧管理やコールドジョイントの予防につながる。
- 施工ブロック毎のコンクリート到達時刻を自動感知が可能、専用PCや外部モニターで確認し、施工データの記録ができる。

### 適用条件

1. 自然条件  
感知センサー適用温度 -10～+80℃の範囲内とする。
2. 現場条件  
無線読み取り端末および大型モニターの設置場所には、それぞれにAC100V電源が必要である。
3. 技術提供可能地域  
全国

### 適用範囲

1. 適用可能な範囲  
覆工コンクリート打設。
2. 特に効果の高い適用範囲  
施工管理を見える化したい現場。

